

令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和8年 3月16日

宗教法人日本基督教団日野台教会付属 日野台幼稚園

1. 本園の教育方針

- キリスト教の精神に基づく保育
- 一人一人を大切にする保育
- 自由な遊びを大切にする保育

2. 年間の目標・計画

幼稚園教育要領の改訂を踏まえ、一人一人の幼児を大切にされた質の高い教育の実践を目指す。自己評価を実施することにより、教職員が客観的に自らを振り返り教育内容の改善に取り組んでいく。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育内容の改善	A	昨年度の反省をふまえ、子どもの現状にあわせながら、保育者間で協力しあいながらすすめていくことができた。大型プールの導入やすくわくプログラムに取り組むことができた。
2	仕事の合理化	B	主任を中心に仕事の分担や効率化をはかり、行事の検討なども早く取り組むようになり、結果として保育も充実し、残業も減らすことができた。今後は有給休暇の取得の確保が課題となっている。
3	未就園児にむけた子育て支援の取り組み	A	今年度ははじめた野の花クラスが好評で年間通して利用者が多かった。低年齢の親子の成長を喜び合うときとなり、保護者通しのつながりもできていた。来年度来年度も継続していく。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	新しい職員2名をくわえ、年度途中で管理職の体制が変わったが、職員間でよく情報共有をしながら、保育について気軽に話し合う機会がふえ、一人一人を大切にする保育を実践し、工夫していくことができた。その結果、ガチャポンプや大型プール、すくわくプログラム、園外散歩など、新しい取り組みにも挑戦することができた。 新しい未就園児プログラム(野の花クラス)をはじめ、園見学なども保育者が協力しながら、在園時の保育に無理のないよう取り組めて、内容が充実した。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

課 題	具体的な取り組み方法
こどもの主体性を高める保育の取り組む	子どもの力になる保育、保育を豊かにする取り組みを保育者間で工夫し、より子供の成長につながるよう保育を工夫しあっていく
幼稚園の保育の発信	保護者や外部にむけて、保育の中でのこどもの育ちや大切なことを具体的に伝えられるよう、情報発信の仕方を工夫し、取り組んでいく。
安全に対する取り組み	来年度から月に1回、いろいろな避難訓練をしていく。保育者とこどもが具体的に安全のためにどうしたらよいか実感できる時となるよう工夫していく。

6. 学校関係者評価 （実施日 令和8年3月4日）

- ・一年間通じてこどものやりたいことを実現するように保育してくれていた。先生が決めてしまうことは楽だとおもうが自由遊びを大切にしてくれていることがよかった。
- ・こどもたちが、いままで経験したことのないことをとりいれてくれたのがよかった。アルパカの毛をそめて糸にしたり、それをつかって編んだり、また腐葉土づくりをしたり、継続して経験できるようにしてくれていてとてもよかった。
- ・強制してやらせるのではなく、やりたくない気持ちをうけいれながら対応してくれているので、こどもが幼稚園をいやがらず、クラスのムードが良い雰囲気だと思う。
- ・少人数のクラスで、先生が目が行き届き、友達ともかかわりも丁寧はどうしたよいか、こどもにわかるように対応してくれるので安心感がある。
- ・異年齢のかかわりが多くあり、他学年とも遊び、とてもよいとおもう。
- ・園庭で収穫したものを、ジュースやジャムにして食べることがとても印象に残っているようでこどもがよくはなしてくれる。良い経験だと感じているので続けてほしい。
- ・未就園児のことについては、「給食があれば日野台にしたい」という人がいた。実際作り出してみると対して負担はたいしたことないのだが、入園前はお弁当を負担に感じる保護者は多い。検討されてはどうか？